



TITLE:

故鎌倉昇教授略歴

AUTHOR(S):

経済学会

---

CITATION:

経済学会. 故鎌倉昇教授略歴. 経済論叢 1969, 104(3): 216-217

ISSUE DATE:

1969-09

URL:

<https://doi.org/10.14989/133359>

RIGHT:

# 經濟論叢

第104卷 第3号

---

哀 辞

故鎌倉 昇教授遺影および原稿

経営戦略について……………	田 杉 競	1
ニュースと「企業性」の接点……………	島 崎 憲 一	23
フィスカル・ポリシーと完全雇用……………	森 岡 孝 二	41

記 事

鎌倉教授逝く

追 悼 講 演 (石川常雄・市村真一・堀江保蔵)

追 憶 談 (杉浦一平・吉田進・西村理・引馬滋)

故鎌倉昇教授略歴・著作目録

---

昭和44年 9 月

京 都 大 学 經 済 學 會

## 故 鎌倉 昇 教授 略歴

大正13年8月29日

昭和6年4月

昭和12年3月

昭和12年4月

昭和16年12月

昭和17年4月

昭和19年9月

昭和19年9月

昭和19年11月

昭和20年12月

昭和21年7月

昭和22年4月

昭和25年3月

昭和25年4月

昭和26年7月

昭和26年9月

昭和28年3月

昭和28年4月

昭和29年7月

昭和32年11月

昭和33年4月

昭和33年9月

昭和34年4月

昭和34年8月

大阪市東区岡山町に生まれる

大阪市立中之島尋常小学校入学

大阪市立中之島尋常小学校卒業

大阪市立天王寺商業学校入学

大阪市立天王寺商業学校卒業

大阪商科大学高等商業部入学

大阪商科大学高等商業部卒業

東洋紡績株式会社入社

兵役(現役召集)北支

中華民国より復員

東洋紡績株式会社退社

京都大学経済学部入学, 青山秀夫教授の指導を受く。

研究事項:「最近の英米経済学, 就中国民所得理論を中心とする経済分析」

京都大学経済学部卒業

京都大学大学院(経済学部)に入学, 特別研究生を命ぜらる

東京大学に於いてアメリカ研究セミナーに参加, ハワード S. エリス教授の指導を受く

処女出版:「国民所得と資源」(市村貞一共著)

京都大学大学院卒業

経済学部助手となる

アメリカ合衆国へ出張, スタンフォード大学へ留学, E. シュウ, K. アロウ教授の指導を受く(昭和32年4月まで)

経済学部助教授となる

学部講義, 計量経済学を担当。教養部へ出講(非常勤),

経済学概論を担当(昭和34年3月まで)

京都市立美術大学講師

華頂短大講師

アメリカ合衆国へ出張, 国際連合経済調査官(昭和37年4月まで)

昭和37年3月	経済学博士となる〔学位論文：金融経済の構造〕
昭和37年4月	学部講義，数理経済学を担当
昭和38年4月	学部講義，計量経済分析を担当
昭和38年7月	アメリカ合衆国へ出張，国際連合コンサルタント（昭和38年10月まで）
昭和39年4月	学部講義，数理経済学を担当
昭和39年7月	タイ，ビルマ，ヴェトナム，マレーシア，インドネシア，フィリピンへ出張（昭和39年8月まで）
昭和40年4月	学部講義，貨幣論を担当
昭和40年6月	理論計量経済学会理事
昭和41年4月	学部授業，英書経済講読（マクドーガル）を担当
昭和41年9月	イギリス連合王国，ドイツ共和国，フランス，ベルギーへ出張（昭和41年10月29日まで）
昭和42年3月	通産省産業構造審議会専門委員
昭和42年4月	学部講義，貨幣論を担当
昭和43年4月	大蔵省財政制度審議会特別委員
昭和43年4月	学部講義，金融論を担当
昭和43年7月	経済学部教授となる
昭和43年10月	京都大学学生部委員会委員
昭和43年10月	京都大学70周年施設委員会委員
昭和44年4月	学部講義，金融論を担当
昭和44年7月7日	長野県軽井沢で心筋梗塞のため逝去